SCHULE IM BERG 2011

山のシューレ

2011

自然は叡智を秘めています。
自然は宇宙についての無限の情報を孕み、生命を生み、ついには人間をこの地球に送りだしてきました。
人は、自然の叡智を学びながら、自然を母として成長してきたのです。
しかし、自らを育んできたその叡智を人間は忘れようとしています。
人間を包む生命、生命を包む自然、自然を包む地球、地球を包む宇宙……
そうした人間世界を根底で織りなす連鎖と関係の中に古くて新しい叡智を見いださねばなりません。
破滅的な方向へ突き進む科学技術や経済や環境を再考し、人間の技と振る舞いを正しい道へと連れ戻すヴィジョンが切望されています。自然に潜在する膨大な知恵を救いだし、その知を通して、世界の有り方を変えてゆくことが求められているのです。

近現代の技術文明は、自然を制圧し、支配し、不可逆的な改変をもたらすものと考えられてきました。しかし技術（テクノロジー）という言葉の語源となった古代ギリシャ語の「テクネ」は、もともと自然のなかにかくされている自然自身の本質を露わにし、輝きださせる技という意味を持っていました。技術を効率や生産性の追求、硬直化した社会制度から開放してみると、技術の内部から本来の知が目覚め、自然や生命に対して、繊細で複雑な振る舞いをすることを発見できるでしょう。自由で高度な人間の技術は自然を制圧したり、破壊したりするのではなく、自然と人間の間に創造的な関係をつくりだします。技術は生命を管理したり抑圧したりするのではなく、生命の無限の知恵を引き出し、この世界に豊かな意味をもたらすものだったのです。

21 世紀に必要なことは自然が語りかけるものに耳を傾け、人間と自然の間に新しい生きたインターフェイスをつくりだすことでしょう。私たちの世界にもう一度、失われた叡智を注ぎこみ、私たちの言葉や心に慎ましさを取り戻し、人間と自然の壊れかけた関係を修復してゆかなければなりません。森と庭、里山の再生は人間と自然の生きたインターフェイスの格好のモデルとなるでしょう。那須の小さな森と庭からその新しい物語が始まります。

伊藤俊治（東京藝術大学美術学部教授）

CONCEPT 2011

文化の多様性、共生の複合性について

東と西、中心と周縁、伝統と現代、
身体と自然、個と社会を結ぶ、
一のなかの多、多の融和の可能性について ———

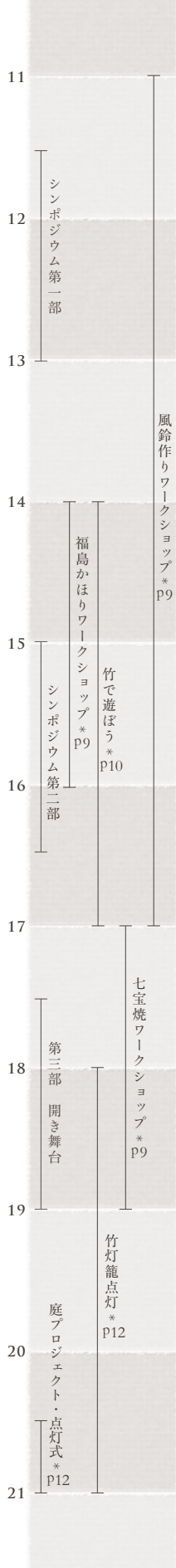
二十一世紀を、私たちはすぐれて、融和と対話の時代であるととらえています。十九世紀いらい、社会を激変させてきた新しいテクノロジーと進化を信奉する思潮は、人間の疎外や均質化をももたらし、自然、肉体、そしてその結びつきが脅かされています。

新しい美意識によってこそ、分裂したさまざまな可能性が、再び出会うこと。東と西、伝統と現代、身体と自然が出会い、「響き合い」、そして再び触発し合うことこそが、今日求められるべき、文化の多様性、共生の複合性、その真の謂なのではないでしょうか。「自然の叡智の再発見を通じて、人間と技術と社会の在り方を問う」た「山のシューレ 2010」を受けながら、「山のシューレ 2011」では、森羅万象に秘められた「かたち」、五感を交える「かたち」や、ジャンルを横断する「かたち」、そうした始原の「かたち」のさまざまな出会いを探ります。

伝統とモダン、西欧とユーラシアなどを融合させるような、五感のユートピア、そして因習を超えた、審美的な共感共同体とライフ・スタイル・リテラシーを探るべく、アートやデザイン、文化の本源に迫ります。

山のシューレ 2011 総合監修

新見隆（二期リゾート文化顧問、武蔵野美術大学教授、キュレーター）



7/29 [FRIDAY]

SYMPOSIUM 1

第Ⅰ部｜ユーラシア文化の響き合い —— マクロとミクロが交わる美

基調講演Ⅰ　アンドレア・バトルフィ（写真家）
　　新見隆（キュレーター）
基調講演Ⅱ　青柳正規（西洋古代美術史家、国立西洋美術館館長）

SYMPOSIUM 2

第Ⅱ部｜ライフ・スタイル・リテラシーへ —— 日本文化と美意識の未来形

原研哉（デザイナー）
青柳正規（西洋古代美術史家、国立西洋美術館館長）
［モデレーター］　新見隆（キュレーター）

第一部　11:30 — 13:00　（ランチ交流会　13:00 — 14:30）
第二部　15:00 — 16:30
会場：観季館　参加費：15,000 円（第一部・第二部／ランチ交流会付き）

◇アヴァンギャルド人形劇「光の庭」上演
　武蔵野美術大学芸術文化学科・新見ゼミ有志（ランチ交流会時）

STAGE

開き舞台「奥の細道那須幻想」

安田登（能楽師）　槻宅聡（笛方）　奥津健太郎（狂言師）
楠美奈生（コンテンポラリーダンサー）

山のシューレ 2011 の 3 日間を開くのは「奥の細道那須幻想」、松尾芭蕉が自らを求め、探しゆく旅「奥の細道」の物語です。
「補陀落（ふだらく）」=観音菩薩の浄土といわれた栃木県日光。かつては、死を遂げてご加護をいただく「補陀落渡海」の風習もあり、日光への旅は死と再生の旅でもありました。日光より北上に位置する那須という土地を、再び生をいただく「再生の場所」と解き、『奥の細道』を地に『夢十夜（夏目漱石）』を綾に、こもごも交錯する語り（安田）の中で、狂言師（奥津）、コンテンポラリーダンサー（楠美）、能管（槻宅）と豪華キャストがコラボレーションします。

17:30 — 19:00　会場：観季館　参加費：3,000 円

7 / 30 [SATURDAY]

LECTURE

能の身体性、能の霊性

安田登（能楽師）　内田樹（思想家）

能の物語の多くは、幽霊や草木・鳥獣の精霊、あるいは神様などが主人公です。目に見えない存在を主人公として、650 年も続いてきた世界的にも珍しい芸能です。
それは目に見えないものを見、聞こえない音を聴き、触れることができないものを感じる力を、私たちが近年までもち続けてきたからでしょう。知性や感性とは違う「霊性」。これによって、盆や正月には今は亡き先祖と「暮らし」、そして自分の中に連綿と連なる古人の魂を実感してきましたが、現代は、急速にその力が失われつつあります。しかし、いまでは能にはそれが残っています。自らも能を舞う現代思想家、内田樹（神戸女学院大学名誉教授）と能楽師、安田登が、失われつつある霊性の力を能の中から見つけ出してみます。

11:30 ― 13:00　会場：観季館　参加費：4,000 円

LECTURE

二期倶楽部特別企画　料理教室 & ランチ

宮﨑康典（二期倶楽部総料理長）

山のシューレでもお馴染みの、二期倶楽部総料理長宮﨑康典による料理教室。山のシューレ 2011 では私たちの「食」と身体について考えを深めることをテーマに展開していきます。レッスン後は二期倶楽部シェフによるランチ会もお愉しみに。

11:30 ― 14:30　会場：観季館　参加費：8,000 円（ランチ込）

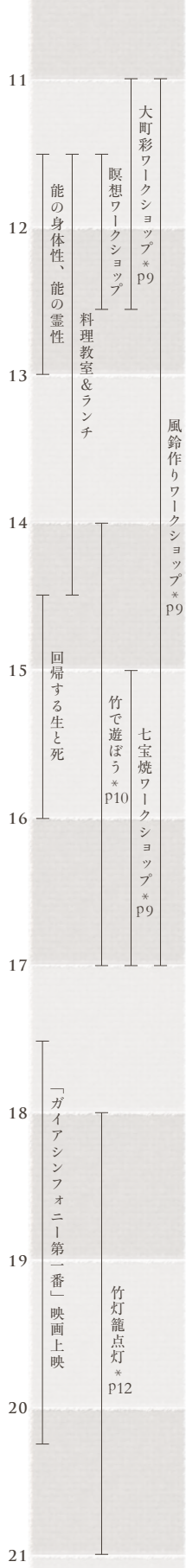
WORKSHOP

自然を感じる、神秘を想う = 写真術ならぬ、身体と心の瞑想ワークショップ

アンドレア・バトルフィ（写真家）

日本にも通じるユーラシアの血をもったマジャール族の地である、ハンガリー。ブタペスト在住の気鋭女性写真家、アンドレア・バトルフィさんが初来日して、憧恋の地であった日本で、彼女の神秘的で自然の神殿のような写真作品をつかって、私たちの「内なる自然」を感じ、育て生みだすユニークな瞑想を伝授します。（日本語通訳つき）

11:30 ― 12:30　会場：キッチンガーデン　参加費：2,500 円



LECTURE

回帰する生と死
―― ケルトと日本の死生観から

鶴岡真弓（美術文明史家・ケルト芸術研究家）

反対物の一致（コインシデンティア・オポジトルム）」という概念ほど、現在の私達の状況を指し示すものはありません。
人間世界をより「確実」にしてきた科学技術が邁進するほど、それは「危うさ」を内包させるものです。しかし古来人間は、「光」と「闇」、「冷たいもの」と「熱いもの」、「最大であるもの」と「最小であるもの」など一見対立するかに見えるもの同士は、互いに「強く引き合いながら、活発に蠢いて」おり、その運動そのものが宇宙自然の最高の法則なのであることを直観していたのです。ヨーロッパの基層文化「ケルト」や「日本」文化は、「極小なもの」のなかにこそ「極大なもの」を直観する美学をもちます。「衰微」や「死」から「再生」する力も、「極微なもの」のなかに蠢いています。
「ケルトと日本」の美的表現を通して「霊魂」や「アニマ」へのその強力な意識を浮き彫りにしてゆきます。

14:30 ― 16:00　会場：観季館　参加費：4,000 円

LECTURE

龍村仁（映画監督）特別講演
×「ガイアシンフォニー第一番」映画上映

「地球の中の私、私の中の地球」今一度、地球に、自然に心を傾け、耳を澄ます。ガイアとは、ギリシア神話に登場する大地の女神、「地母神」です。ガイアが奏でるシンフォニー（=交響曲）のように、それぞれに独立した主題をもった楽章が重なり合って、全体として地球という大きなハーモニーを奏でるドキュメンタリー映画「ガイアシンフォニー」。このたびは、第一番を特別上映、そして龍村仁監督にこの映画にかける思いと、メッセージを語っていただきます。私たちが創る未来について改めて考え、想像していくひとときとなることでしょう。

17:30 ― 20:15　会場：観季館　参加費：2,000 円

7/31 [SUNDAY]

LECTURE

ゲーテ色彩論とその拡がり

能勢伊勢雄（写真家・美術展企画）

現代の教育では殆んど教えられることが無くなったゲーテの色彩論を簡単な実験を用いて実際に体験していただきます。この体験を基にニュートンの光学理論では捉えられない、私たちが色彩を通じて「感動」する理由と、美術に携わる人やアーチストのための「色彩」の捉え方を感取していきます。ゲーテの有名な言葉「外なる世界が色彩を持っているように、眼もまた色彩を有している」ことを通じ、色彩を通して巨人・ゲーテの世界観を覗いてみます。

11:30 ― 13:00　会場：観季館　参加費：4,000 円

LECTURE

デザインの精霊の吹くところ
――「風土」のデザインを求めて

佐藤卓（グラフィックデザイナー）
ナガオカケンメイ（D&DEPARTMENT PROJECT 代表）

金沢 21 世紀美術館や神奈川芸術劇場（KAAT）のシンボルマークデザイン、「明治おいしい牛乳」の商品デザイン、21_21 DESIGN SIGHT のディレクターを務めていることで知られる、名匠佐藤卓さんの感性と、デザインの社会性を問い直しながら、地域起こしにデザインを駆使するデザイン運動家、ミスター・ナガオカが、デザインのエッセンスと、「風の景色」と「土の彩り」に密着した、デザインの未来形を語ります。

14:30 ― 16:00　会場：観季館　参加費：4,000 円

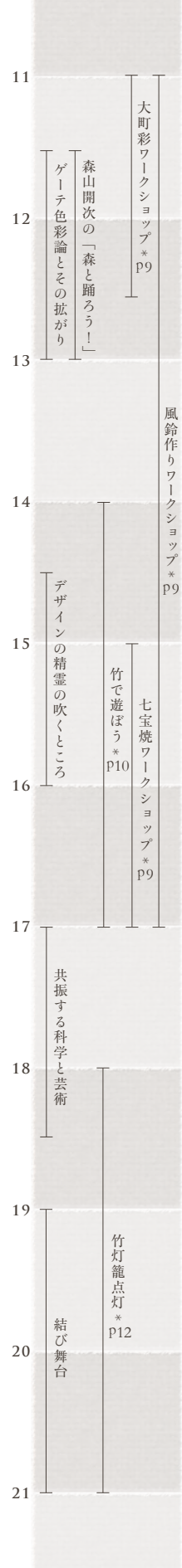
LECTURE

共振する科学と芸術
―― 二つの文化の新たな融合へ

伊藤俊治（美術史家）　佐治晴夫（宇宙物理学者）

21 世紀は科学における人間回復の時代ととらえられるかもしれません。資源エネルギー問題や環境問題など人間の存続そのものが厳しく問われる難問が噴出するこの時代、科学はより人間に近づいてゆくことが切望されています。そのために欠かせない視点は科学と芸術の新たな融合ということではないでしょうか。20 世紀において科学と芸術はまるでかけ離れた世界のように見なされてきましたが、この対話ではそれらの共通の基盤を確認しながら、「身体のなかの宇宙」、「科学から自然哲学へ」、「美意識と直観」といったキーワードを手掛かりに新しいヴィジョンを語り継いでゆきます。

17:00 ― 18:30　会場：観季館　参加費：4,000 円



WORKSHOP

特別親子ワークショップ
森山開次の「森と踊ろう！」

森山開次（ダンサー）

鳥のさえずりに風の音、木々の声に耳を傾けて、森と踊ろう。
心と体の感性のコミュニケーション、親子の絆を自然の中で深めてみませんか。普段の生活では見られない子供と親の感性。いつも一緒にいるけれど、新しい姿がお互いに発見出来るかもしれません。川のせせらぎは心地よく、日の光は暖かく優しい。むずかしいことは考えず、森の木々に体を委ねて踊りましょう。

11:30 ― 13:00　会場：観季館
参加費：大人 2,500 円／子ども 1,000 円
定員：親子 15 組 30 名（子どもは小学生以上）

STAGE

結び舞台
縄文・オトとカタチの原風景

土取利行・縄文鼓演奏と、共演者：猪風来＋縄文土偶たち

猪風来（いふうらい）は、70 年代に縄文土器と巡り会い、千葉県の加曽利貝塚博物館で土器作りの技法を修練し、86 年に原爆の図、丸木美術館で「現代創作土偶展」を開催。88 年に北海道の豪雪地、浜益村に自力で竪穴住居を作り、20 年間にわたって、畑を開き、自給自足の生活を送るとともに、縄文野焼き技法による独自の世界を開発してゆきます。
その後 2005 年に、岡山県新見市法曽に移住し、廃校を利用した「猪風来美術館」を開設し、地元に 1200 年前より伝わる法曽焼を 150 年ぶりに復活させるなど、精力的な活動を続けています。
縄文のオトやカタチは、鎮魂、豊穣・再生と深く結びついたものです。
かつての縄文王国、東北各地で発生した震災で、尊い生命をなくされた多くの方々への鎮魂の念をも込め、この那須の地から、シューレの最終結び舞台を日本、世界、宇宙へ向けた縄文のオトとカタチで締めくくります。

19:00 ― 21:00　会場：観季館　参加費：3,000 円

© 2011 Art Biotop all rights reserved. Printed in Japan.

CERAMIC

アーティスト・イン・レジデンスプログラム 福島かほりワークショップ

福島かほり（陶芸作家）

身近な道具「手」から、形を探る……

福島かほりは陶芸粘土を使い、女性の体とうつわの関係をテーマに作品を作っています。あなたは自身の手から何をイメージしますか。毎日見ているはずの手をもう一度よく見つめ「あなたが大切だと思うものを持つ手」を想像して粘土で作ってみましょう。

7/29　14:00 — 16:00　会場：アート・ビオトープ那須・陶芸工房
参加費：4,500 円

CERAMIC

大町彩 陶芸ワークショップ 2 日間連続講座

大町彩　（陶芸作家）

1 日目・ドローイング —— 森の散策とドローイング

ドローイングでは、歩いている中で見つけた物、一緒に歩いている人、音や匂い……感じたものなど、自由に描いてみましょう。1 日目は“手を動かす”ということを、大事にしたいと思います。気楽に自然の空気を感じながら楽しんでいきしょう。ドローイング後は、スライドを観ながらランチタイムを楽しみましょう。

2 日目・絵付け —— 作家とコラボレーション素焼きの器に下絵具で描く

大町彩さん自ら創っていただいたパッチワークをあしらった平皿をベースに、絵付けをしていきます。絵付けは、筆だけでなく、布やスポンジ、また絵具で描いた上から引掻いたり、擦ったり、ふきとったりと様々な可能性があります。その可能性に、皆で自由に楽しんでみましょう。作家とコラボレーションする“オリジナルお皿づくり”ワークショップです。

7/30 , 31　11:00 — 12:30　会場：アート・ビオトープ那須・陶芸工房
参加費：9,000 円（2 日間）

OTHERS

涼しい夏を呼ぶ —— 風鈴作りワークショップ

7/29, 30, 31　11:00 — 17:00　（随時受付）
会場：アート・ビオトープ那須・ガラス工房　参加費：4,000 円

手軽にできるアクセサリー —— 七宝焼ワークショップ

7/29　17:00 — 19:00　7/30, 31　15:00 — 18:00　（随時受付）
会場：アート・ビオトープ那須・陶芸工房　参加費：2,000 円

BAMBOO

竹で遊ぼう
—— 子どもから大人まで竹をつかってワークショップ

ちかけん × 里山チクルス

熊本で活躍されている“ちかけん”による竹のワークショップ。大田原の竹を利用して、大人は趣き深く、美しい光を放つ塔型の竹灯籠づくり、子どもたちは水鉄砲をつくって遊びます。夏空の下、旅の想い出づくりに是非ご参加下さい。

7/29, 30, 31　14:00 — 17:00　（随時受付）
会場：ブラウンハウス　参加費：大人 1,000 円／子ども 500 円

EXHIBITION

山のシューレ・同時開催企画　にきホール

アンドレア・バトルフィ写真展

マジャールの魂 —— 日本の神秘的自然観への贈り物
ユーラシアの魂で融合させる、
西洋と東洋の自然観と、神秘

日本のユーラシア性にも通じる、ハンガリーはマジャールの人人は、コダーイやバルトークなどの音楽、そして世紀末のレヒネル・エデンなどの、装飾美術や建築にみられるように、土俗的なものと都市文化、西洋性と東洋の伝統を巧みに融合した、独自でユニークな味わいの深い文化を、つくりあげてきました。
ハンガリーの首都、ブタペストで活躍する、気鋭の女性写真家アンドレア・バトルフィは、自然を微細で、有機的な姿で写し取った写真を、左右対称に合せて再構成し、神秘的で、瞑想的な空間を、インスタレーションする作家です。
彼女は、日本の近代黎明期の、「新日本画」に、東西文化の新しい融合と、その精神性の再発見をみて、それを使った、制作ワークショップも行いながら、自らの活動を広めています。2011 年、4 回目を迎える「山のシューレ」がかかげる、東西文化の融合=ユーラシア性の、テーマの中心展示として、アンドレアさんの、清新で深い写真世界の、日本初公開展をお届けします。

7/29, 30, 31　11:00 — 18:00　会場：にきホール

10 年の庭プロジェクト

ル・アッサンブラージュ
ひとつの庭は世界の庭

「21 世紀は庭園の世紀である」アンドレ・シトロエン公園やケー・ブランリー美術館など 斬新な庭のデザインで注目を集めるフランスの庭園アーチスト、ジル・クレマンの言葉です。クレマンは、ある秩序に従い自然を組み替えてゆく従来の庭の概念を大きく変え、静的秩序 から動的秩序としての庭を提言し、絶えず変化する生命のメッセージが庭の核であることを 示しました。自然は完成することなく、庭もまた常に変化し続けます。植物の種が風や動物、昆虫などを媒介に動いてゆく、そんな自然の動きを重視した庭をクレマンは目指したのです。

新たな庭はベルサイユ宮殿に象徴されるような固定された造形庭園ではありません。そこでは生命の多様な生態と環境の相互関係や生命同士の混合のプロセスが展開され、様々な文化による多彩な自然観に触れることができ、科学技術を使った環境への調和的な働きかけが実現される場所でなくてはなりません。そこは創造する生命の複雑で精緻なメカニズムを観察し、体感し、人間と自然の共存を考える場でなくてはならないのです。

この庭プロジェクトは、自然を繊細に調整しながら自然と共生してきた日本文化の長い歴史と成果を踏まえ、アーチスト、建築家、デザイナー、生物学者、生態学者、庭園師、人類学者、哲学者といった人々が集い、対話し、交感し、新しい庭をつくりだしてゆく共創の場です。また、このプロジェクトは自然と調和し、共生する人の技を伝えてゆく新たな伝承の形式ともなるでしょう。

クレマンは地球はひとつの、しかもとても小さな庭であると言いました。そして彼のつくりだした庭では世界中から集められた植物がその地で、独特の変化をし、驚くべきアッサンブラージュを繰り広げます。

ひとつの庭の知恵や美や詩が世界の庭に響きわたります。人間と自然を新しい形で結びつける小さな試みがひとつの庭から始まります。

このプロジェクトはこれから10年かけて横沢地区に、各分野で活躍しているクリエイター、アーティストにより様々な「庭」を実現させていくものです。横沢地区のアートコロニーへ向けての実現に寄与するものとします。また、各庭プロジェクトの主催は、庭の存在する場所により随時、検討するものとします。

MEMORIAL SERVICE

庭プロジェクト × ちかけん × **AIR**

夏の夜、庭に集い、竹灯りに祈る

山のシューレ初日 7/29（金）、竹灯りの点灯とともにこれからの 10 年間にわたる庭プロジェクトの発表を行います。第一プロジェクトは、ツリーハウスクリエイター小林崇氏による「ツリーハウス」のある庭です。二期倶楽部の庭内の胡桃の木を舞台に、発表には、アーティストインレジデンス（通称：AIR）プログラム作家の舞踊ユニット「86B210」のパフォーマンス、そして熊本を拠点に活躍する“ちかけん”とのコラボレーションによる竹灯りが重なります。

7/29　20:30 ― 21:00　会場：二期倶楽部庭内・ツリーハウス

小林 崇　KOBAYASHI TAKASHI
ツリーハウスクリエイター。オレゴンで培った知識と感性、国内外における制作実績をもとに、ツリーハウスのオンリーワンブランドとして活動するプロ集団である、株式会社ツリーハウスクリエーション代表。

86B210　86B210
鈴木富美恵と井口桂子からなる前衛舞踊ユニット。劇場、クラブ、ストリート、ギャラリーなどあらゆる場所で国際的に活動を続けている。東日本大震災後、東京青山のスパイラルにおいて震災復興チャリティー・イベント「アートの力」でパフォーマンスを行った。

ちかけん × 里山チクルス ―― 竹灯籠 参画者募集

多くの方からの「灯籠メッセージ」を募集しています。

那須の森の夜、参画いただいた方からのメッセージをつけた竹灯籠が光をともす。御霊を迎え、そして送るという昔に倣い、この度の東日本大震災で尊い命を亡くされた多くの方々の慰霊と鎮魂の祈りを込めて、そして、いまなお私たちを包み込む自然について改めて見つめ感じるひとときとしたいと思います。栃木県の八木沢正さん、若竹会、ちかけんにご協力いただき、栃木県大田原の竹を利用します。

一灯籠：3,000 円　メッセージ灯籠への参画のお申し込みは 7/15 締切です。

――― 里山チクルスとは？

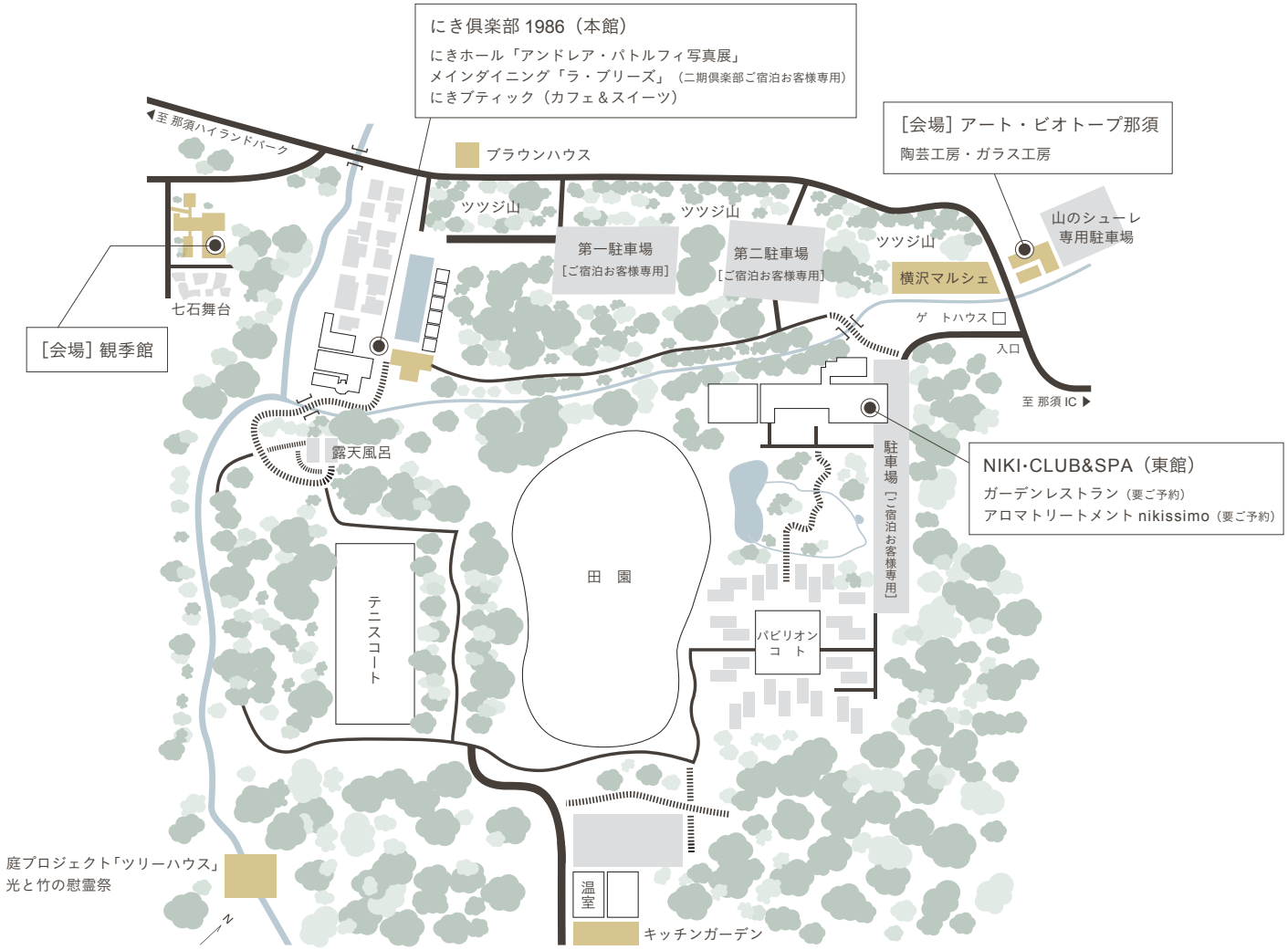
里山の中にある那須・横沢地区において里山、竹林の整備、休耕田の再生、農作物の栽培、苗木会員の募集などの多様な活動を展開していきます。

［お問い合せ］NPO 法人アート・ビオトープ　東京事務局
〒151-0065　東京都渋谷区大山町 45-18 代々木上原ウエストビル 1F
Tel. 03-3466-5818　Fax. 03-3466-5902　E-mail. info@npo-artbiotop.org

――― ちかけんとは？

熊本・阿蘇を拠点にし、みずあかりなど竹あかりの創作（指導）・プロデュース。また、竹あかり使用後の竹を堆肥化し、農業利用するなど、環境循環型に取り組んでいる。

AREA MAP



FOOD & DRINK

観季館バーオープン

1972 年、東京・神宮前にオープンした「バー・ラジオ」。観季館のバーには、当時（セカンド）バー・ラジオにあった彫刻家・若林奮の作品がが移設され、面影を再現しています。山のシューレ期間中は観季館バーがオープン。夏夜のひとときをお楽しみ下さい。

7/29, 30, 31　21:00 ― 24:00　会場：観季館・バー

YOKOZAWA Marche ―― 市場

山のシューレ期間中は横沢マルシェがオープンします。那須の土地ならではの楽しい品々をお求めいただけるユニークなショップが並びます。食事処としてもご活用下さい。

7/29, 30, 31　12:00 ― 20:00　会場：横沢マルシェ

SPECIAL AFTER EVENT

山のシューレ・特別連動プログラム

commmons: schola 講座 ―― 親子のための音楽教室

坂本龍一（音楽家）× **小沼純一**（音楽／文化批評・早稲田大学教授）

8/1 [Monday]　16:00 ― 17:30　会場：観季館
参加費：大人 4,000 円／子ども 500 円（10 ― 18 歳）

［主催］特定非営利活動法人アート・ビオトープ　［共催］二期倶楽部
［後援］栃木県　那須塩原市教育委員会　那須町商工会　社団法人那須観光協会　株式会社エフエム栃木
株式会社下野新聞社　株式会社とちぎテレビ　株式会社栃木放送
［特別協賛］株式会社二期リゾート　［協賛］カメヤマキャンドルハウス　セメダイン株式会社　ピアス株式会社
［協力］commmons　ちかけん　八木沢正　リトルステップス　若竹会

※プログラムは一部変更になる場合があります。表示料金は税込価格です。